

熊毛の社会教育

令和二年二月発行
熊毛地区社会教育振興会

＜熊毛地区社会教育主要事業実績＞

月	日	曜	事業名	会場	参加者数
5	25	土	地区子ども会指導者・育成者研修会 地区子ども会安全教育研修会(種子島会場)	西之表市民体育館	55人
5	25	土	地区子ども会指導者・育成者研修会 地区子ども会安全教育研修会(屋久島会場)	屋久島町総合センター	71人
6	5	水	地区社会教育指導者研修会(PTA・女性・高齢者団体)	南種子町中央公民館	70人
6	22	土	地区人権教育ブロック別指導者研修	西之表市民会館	123人
6	22	土	地区社会教育指導者研修会(青年団体)(～23日)	あっぱ～らんど	36人
8	29	木	地区子ども会大会・創作活動大会	屋久島環境文化研修センター	47人
9	2	月	地区文化財保護審議会委員等研修会	南種子町中央公民館	35人
12	7	土	県PTA活動委嘱公開	西之表市民会館	351人
12	15	日	地区子ども会ジュニア・リーダー養成研修	中種子町立中央公民館	50人

熊毛地区社会教育振興会では、地域・家庭・学校・行政・関係機関等の連携が更に深まり、熊毛地区の社会教育がますます充実・発展することを願ってリーフレット「熊毛の社会教育」を作成しています。

一・二ページには、地区主要行事を、三～六ページには、一市三町の特色ある事業等を掲載してあります。

ぜひ御一読いただき、本地区の社会教育の更なる充実・発展に御理解と御協力をお願いいたします。

子ども会指導者・育成者研修会 子ども会安全教育研修会

種子島会場

令和元年五月二十五日(土)
西之表市民体育館(五十五人)

種子島の一市二町の子ども会リーダーや育成者・指導者が集まり、正しい応急処置(熊毛地区消防組合職員)・危険予知トレーニング(KYIT)の実際・種子島レオクラブによるレクリエーションについて研修しました。その



中で、指導者・育成者の合言葉「手は出すな、目を離すな」を心がけ、子供たちが自主的に活動できる大人の役割について学びました。

屋久島会場

令和元年五月二十五日(土)
屋久島町総合センター(七十一人)

屋久島町の子どもの会リーダーや指導者・育成者が集まり、KYITや各役割について学びました。KYITトレーニングにおいては、指導者が見守る中、



高校生クラブ「ぼんだま」の生徒たちが司会進行・講師となり、子供たちの見事な見本となりました。

社会教育指導者研修会

PTA・女性・高齢者団体

令和元年六月五日(水)
南種子町中央公民館(七十人)

種子島地区のPTA及び女性団体・高齢者団体が、各団体の活動の充実を目的として合同研修を行いました。

熊毛教育事務所
の雨田指導主事に「社会教育団体のリーダーの役割」と題し、講演をしていただきました。



ワークショップ(参加型研修)について学び、レクリエーションで他団体と交流を深めてからワークショップの実践を行いました。お互いの緊張感もほぐれ、様々な意見が聞かれました。

青年団体(人権教育ブロック別研修会)

令和元年六月二十二日(土)
西之表市民会館(百二十三人)

人権教育では、県教育庁人権同和教育課の河野指導主事を講師としてお迎えし、「わたしも大切 あなたも大切 みんなで進めよう人権教育」と題し、講演をしていただきました。自分の考



えと異なるという理由で拒絶するのではなく、見方を変えて物事を捉えることを学び、人権教育の指導者としての資質の向上が図られました。

青年団体

令和元年六月二十二日(土)・二十三日(日)
あっぱ～らんど多目的交流館(三十六人)

各市町の青年団の紹介と、「これからの青年団体のあり方」についてグループ討議を行いました。全国的に青年団の衰退が課題となっていますが、青年団活動は本地区の強みであり、団員確保にSNSを利用するなど現代らしい意見が飛び交いました。

各地区の団員と様々な情報を共有することができ、情報交換の場として貴重な機会となりました。



文化財保護審議会委員等研修会

令和元年九月二日(月)
南種子町中央公民館(三十五人)

県の教育庁文化財課の森文化財主事の講話を通して文化財保護に対する理解を深めるとともに、研究協議は「郷土の文化財の保存と活用」について、西之表市文化財保護審議会の奥村会長の事例発表を踏まえ互いに研修を深めました。終了後は、南種子町内の文化財紹介として、千座の岩屋(海



浜性ハンミョウ生息地)・恵美之江展望公園・リクガメの化石が発見された河内の貝化石層を視察し、地区の文化財について見識を深めました。

子ども会大会・創作活動大会

令和元年八月二十九日(木)・三十日(金) 屋久島環境文化研修センター(四十七人)

熊毛地区の子供たちが、屋久島で話し合い活動・炊飯活動・体験活動・創作活動を行いました。

話し合い活動では、屋久島町の社会教育主事が講師になり、実際にやってみよう子ども会活動を班ごとで考えてみました。活動を計画するポイントとして①夢②現実性③楽しさ④価値について考えるよう助言があると、出会う数時間の子供たちから次々と夢のある発言が飛び出しました。ある班では、子ども会活動で資金を貯めて、デイズニーランドへ行く等の現実的な計画を作成することができました。

夜の炊飯活動では班ごとに役割分担し、協力し合って各班それぞれ特色のあるカレーを作り上げました。後片付けまでスムーズに行い、キャンプファイヤーで日常の光や火のありがたみを知りました。



二日目は、いよいよ屋久杉と御対面。屋久島の標高五百メートル以上に自生し、樹齢千年以上の杉が屋久杉と呼ばれることを知り、屋久島の自然を体感することができました。

今回の体験活動を通して育まれた自立心や協調性、助け合いの心を、今後

の各子ども会活動へ生かしてくれらることを期待します。

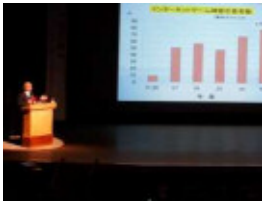


県PTA活動研究委嘱公開

令和元年十二月七日(土)

西之表市民会館(三百五十一人) 種子島中学校PTAでは、『家族の絆』『ひとりだち』を支えるPTA活動』を研究テーマに実践を積み重ねてきました。

西之表市が掲げる「ひとりだちの教育」に基づき、子供の自立に向けた親としての役割を三つの視点から捉え、具体的な活動が推進されています。特に、親と子が素直に愛情や感謝の気持ちを綴る「家族の絆」の発行は、大変素晴らしい取組です。



また、医療法人増田クリニック院長 増田彰則氏に、「睡眠不足とゲーム・

スマホから子どもの脳を守る」を演題に御講演いただきました。

今後、子供にとって「家庭が心の安全基地である」ということを基盤にしながら、学校、家庭、地域が一体となり「ひとりだち」を支えるPTA活動が展開されることを期待します。

子ども会ジュニア・リーダー養成研修

令和元年十二月十五日(日)

中種子町中央公民館(五十人)

中種子町に熊毛地区内のジュニア・リーダーが集い、研修会を行いました。最初は初めて顔を合わせる生徒が多く、緊張した面持ちでしたが、レクリエーション、KYTの実際、グループワークトレーニング、各市町の活動発表及び研修会活動報告、競技大会の必要性を実感し、自分の考えやグループの意見を整理し根拠をもって主張する力を身に付けることができました。



また、「もつと他団体と交流がしたい」等の前向きな感想が多く見られました。今後、中・高校生が地域で主体的に協働しながら活躍することを期待します。

受賞おめでとうございます

令和元年度各種表彰

※敬省略

◆鹿児島県図書館大会 優良読書グループ全国表彰

南種子町おはなし子ども会 (南種子町)

◆県子ども会育成連絡協議会表彰

上能野子ども会 (西之表市) 岩岡子ども会 (中種子町)

◆文部科学大臣表彰及び子どもの読書活動推進優良図書館等表彰

なかつねおはなしパレット(中種子町)

◆優良少年少女団体及び優良地域高校生クラブ等表彰

口永良部子ども会 (屋久島町)

◆熊毛地区子ども会育成連絡協議会表彰

上石寺子ども会 (西之表市) 竹屋野子ども会 (中種子町) 口永良部子ども会 (屋久島町)

【優良個人】 山田 薫 (南種子町)

◆熊毛地区社会教育関係優良個人表彰

吉原 昭保 (西之表市)

◆九州ブロックPTA協議会の被表彰団体等

田中 恭二 (西之表市)

【編集・発行】 熊毛地区社会教育振興会事務局

住所 西之表市西之表七五九〇番地 熊毛教育事務所内

電話 (〇九九七) 二二一〇五三五

FAX (〇九九七) 二二一〇五二一

中種子町



風立
のまち
なかたね

チャレンジキッズ
「屋久島ネイチャーツアー」

年間を通して体験活動等を行っている中種子チャレンジキッズの活動で屋久島への宿泊体験を行いました。種子島にはない大きな山や川、滝を見た子供たちは目を輝かせていました。特に、白谷雲水峡の散策では、映画「もののけ姫」の舞台になった苔むす森まで険しい道を歩いて登りました。森の中で食べるお弁当は特段おいしく感じられました。二泊三日の宿泊体験を通して、集団で行動する上での協調性やリーダーシップを養うことができたツアーとなりました。



チャレンジキッズ「屋久島ネイチャーツアー」

青少年さつま交流事業2019
さつま町訪問

毎年、交流を行っているさつま町に今年も中種子町、青森県鶴田町の三町が集まり、三町合同での交流活動となりました。あいにくの天候で川下りなどの一部プログラムができませんでしたが、学童疎開体験談や鶴田ダムの見学・交流B B Q など、普段できない経験をすることができました。また、さつま町と交流のあった青森県の鶴田町とは初めてだったこともあり、生の津軽弁を聞くこともでき、創作活動では金魚ねぶたを作成し、青森県の文化に触れることもでき、有意義な交流となりました。



さつま町交流事業2019

家庭教育学級合同研修会
〜誰もが幸せに生きるために〜

十二月二日に中種子町立中央公民館大ホールにおいて町家庭教育学級合同研修会を開催しました。県男女共同参画局人権同和对策課の鎌田豊作氏を講師に迎え、「誰もが幸せに生きるために〜人の心に思いを馳せて〜」の演題で人権同和对策について講演を行いました。子どもの人権・インターネット等による人権侵害・障害者の人権（発達障害に関すること）などDVD視聴やニュースを取り上げ、日頃から意識して人の気持ちを考え思いやりを持つことが大切であり、一人一人が行動をしていくことの重要性について学ぶことができました。



家庭教育学級

中種子町の指定文化財

皆さんは、中種子町に指定文化財がいくつあるかご存じでしょうか。現在、中種子町では国指定重要文化財二件、県指定文化財二件、町指定文化財二十五件の合計二十九件の文化財が指定されています。



町山崎の源太郎踊り（野間校区）

国指定文化財には、南界校区に江戸時代末期に建築された庄屋宅「古市家住宅」、メヒルギの自生地である「種子島阿嶽川のマンダローブ林」の二件があります。

県指定文化財には、町山崎に伝わる大踊り「町山崎の源太郎踊り（野間校区）」、三万五千年前の落し穴などが発見された「立切遺跡（南界校区）」の二件が指定されています。

町指定文化財には、野間校区に「塩釜神社の石臼」ほか五件、増田校区に「千草原遺跡」ほか六件、南界校区の「矢止石」ほか七件、納官校区に「平鍋の化石」ほか一件、星原校区に「塩釜跡」の一件、岩岡校区に「苦浜貝塚」の一件が指定されています。

中種子町には多くの指定文化財があります。しかし、町内には指定されていない貴重な文化財も多くあるのが現状です。中種子町教育委員会では、これらの貴重な文化財を後世に残していくため、これからも保存・保護に努めます。

南種子町

心ふれあうまちづくり 南種子町

図書館劇場の開催

南種子町では、例年幼児から大人まで楽しめる劇団公演を開催しています。今年度も、中央公民館において、五月と六月に二回実施しました。

この事業は、離島であることから劇団公演を見る機会が少ない子供たちに、芸術に触れる機会を提供してほしいという保護者の働きかけもあり、平成五年から実施しています。

また、その取組をきっかけにして、翌年には「町お話しども会」が結成されるなど読書活動の充実にもつながる事業として、図書館劇場という名称になりました。



【人形劇の様子】

五月の公演では、人形劇団クララテによる「○・△・□くになにしてあそぼく、あかいめんどり」を、六月の公演では、二人の道化師による「ラグズタイム」を行い、多くの方々が観賞されました。

会場は、すぐ目の前で行われる演技に、終始笑顔と笑い声があふれ、一体感のある楽しい時間となりました。今後、この事業を中心に、芸術文化に触れる機会の提供と、読書活動の

充実に向けた取組を進め、町立図書館の利用促進を図っていききたいと思います。



【ラグズタイム】

国選択文化財 「種子島の盆踊り」 調査事業 実施！

南種子町では、西之表市と共同で令和元年度から令和三年度までの三か年事業として、国選択「種子島の盆踊り」調査事業を文化庁の補助事業として行っています。

八月十六日には、西之の小田・前之



【小田・前之原集落の皆さん】

原集落が伝承する西之本国寺盆踊「きののぎ」が本国寺境内で踊られました。当日は、文化庁の吉田純子調査官や、下野敏見先生、早稲田大学の和田修先生や他の方々が調査に来られました。種子島の盆踊について三年かけて調査し、報告書にまとめる予定です。

こうした貴重な伝統芸能が、過疎・高齢化による担い手不足が主な原因で失われつつあります。今回の調査を通して、持続可能な伝統芸能の継承に向けた体制作りも進めたいと考えています。



【盆踊りの様子】

赤米子ども交流の実施

南種子町荃永には古くから伝わる赤米と赤米にまつわる伝統行事が伝承されています。

南種子町は貴重な文化遺産を未来に継承することを目的として、平成二十六年、同じく赤米文化を伝承する岡山県総社市、長崎県対馬市と「赤米伝統文化交流協定」を結びました。その事業の一環として、宝満神社赤米御田植え祭り保存会が中心となり平成三十年

度から二市一町の伝承に関わる子供の交流事業を行っています。今年度は、対馬市で交流事業が行われ、荃南小学校高学年児童が参加しました。お互いの赤米文化を紹介し合い、対馬の赤米を見学するなど、他地域の子供たちとの交流を通して赤米と赤米文化についての興味・理解を深めることが出来ました。



【対馬での赤米見学】



【交流会での全体写真】

生き生きキラキラ元気あふれる屋久島町

町人権教育研修会
学校保健会講演会
生涯学習県民大学

八月二十二日（木）、生涯学習県民大学講座として三つの講座を離島開発総合センターで開催しました。

講座Ⅰは町人権教育研修会として「誰もが幸せに生きるための人権講座」と題して、県人権同和对策課研修専門員の鎌田豊作さんから高齢者・発達障害・LGBTに対する差別や偏見について講演がありました。

参加者の感想等

- ・ これまで障害者の人権について考えたことがなかった。
- ・ スライドやDVDを活用して、分かりやすかった。
- ・ 人権について深く考える良い機会となった。
- ・ LGBTの内容は初めて学習しました。

講座Ⅱは「カラダとココロの元気セミナー」と題して屋久島町志戸子出身のGETTAMANさんから、健康の最新メソッドを学びました。参加者が舞台上上がって、参加者全員で「ももクロゲッターマン体操」をするなど、会場は楽しい雰囲気になりました。講座Ⅲは鹿児島大学の井村隆介准教授に、ここ数十年の気候変動や地殻変動などの歴史と、屋久島の成り立ち

について学びました。屋久島にはガイドとして働く人も多く、屋久島のことを学ぶ機会として、多数参加していました。

さて、本町において大きな研修会や講演会を行った際に、できるだけ多くの人に聞いてもらいたいという主催者側の願いとは裏腹に、動員をかけないと人が集まらないこと、そして講演会の準備・運営の煩雑さ等の課題がありました。そこで今回は、県民大学中央センター、学校保健会事務局、教育委員会が連携して、それらの課題解決を図りつつ準備を進めました。結果、平日の開催にも関わらず、三つの講座に併せて三百九十八人が参加しました。運営の在り方も負担軽減が図られました。今回の反省を生かして、今後も町民のニーズに合わせた、魅力ある講演会・研修会を開催していきたいと考えています。



ももクロGETTAMAN体操

ありがとうの手紙

屋久島町青少年育成町民会議では、主に町内の小・中学校の児童生徒とその保護者を対象として「ありがとうの手紙」事業を毎年実施しています。この事業は、家族や友達、周りの人や自分自身に対してなど、かねて言葉に言い表せない「ありがとう」という感謝の気持ちを手紙に書いて表現することにより、自分の抱えている感情を確認し、愛情や信頼の絆を一層深める機会になればと、今年度も一月に実施予定です。

平成三十年度

【小学生の部 最優秀賞受賞作品】

おじいちゃんへ

宮浦小学校3年 岩切 菫香

前、図工で小刀名人をしたって言ったのおぼえてる？

けずったえんぴつを見て

「えんぴつけずりより上手だねえ。」ってほめてくれたでしょう。

でもそれは、じつちが、小刀を一生けんめいといでくれたからだだよ。すごくけずりやすかったの。

じつちにほめられると、やる気マンマンになるんだ。

じつちがほめる名人だから、私のがんばる名人になります。

これからもよろしくね。いつもたくさんありがとう。

タスキを軽くして

次世代につなごう

生涯学習大会

本町では、二月に生涯学習大会を開催しており、自ら学び・共に高め合い・広め合う姿勢や、町民一人一人が生きがいを持ち、心身ともに健康で潤いのある充実した人生を送ることができるよう豊かな社会づくりをめざしています。

三十年度は、公民館講座の成果発表、ニュージージラントの留学体験発表や、町子連モデル子ども会の発表を行いました。講師の鹿児島大学准教授、金子満氏に屋久島のこれからの生涯学習の在り方について示唆をいただきました。

講演のまとめ

- ・ 自ら考え創造する「幸せ」や「豊かさ」を実現していこう。
- ・ そのためにお互いの違いを認めながら共感を作り上げていこう。
- ・ 現在の伝統や文化を、そのまま次世代に継承するのではなく、次の世代が勢いよく走りだせるようなタスキにして渡そう。
- ・ 単に軽くするのはなく、思いをギュッと詰め込んだ魂のこもったタスキにしよう。

参加者からは、自分たちが取り組んできたことを、次につなげたいといった前向きな意見が多く聞かれました。本年度は、町PTA委嘱公開と共催し、主にPTAの在り方や、地域・学校・保護者の連携について意見交換をしていく予定です。